

2021年4月15日  
発行

No.  
88

発行人 諏訪 榮治郎  
編集 スタッフ一同

カトリック大阪教会管区  
カリタス大船渡ベース 地ノ森いこいの家

# 大船渡だより

地域のイベントや活動紹介

## パネル展を見て思うこと

東日本大震災から10年と、チリ地震津波から60年になることから、リアスホール展示ギャラリーで『津波からの復興の歴史』と題したパネル展が開催されました。関心の風化防止や記憶の伝承、地域防災意識の向上につなげようと市が企画しました。

それぞれの津波直後の惨状を伝えるものに加え、復旧工事によって新しくなった市街地の風景や、大きな被害を受けながら復活した三陸鉄道なども展示されました。変わり果てた風景の中に、記憶のある箇所を見つけて懐かしい気持ちになると同時に、昔の姿を忘れかけていることに寂しさを感じました。

大船渡はチリ地震津波以前も幾度となく地震・津波の被害を受け、その度に乗り越えてきた歴史があります。最近も地震が多発し、いつまた震災が起きてもおかしくないという報道もされています。自然災害は誰にも止めることができません。記憶を風化させることなく自らの命を守る術を後世に継承していかなければいけないと改めて感じました。

## 赤崎町の今

大船渡湾は深い入り江になっていて、大船渡ベースのある大船渡町の、湾をはさんだ向かい側に赤崎町があります。大船渡市のシンボル的存在のセメント工場の赤白の煙突があるところが赤崎町です。

津波が超えていった川口橋の架け替え工事が終わり、新しい橋を渡って正面にそびえる煙突の根本から右に曲がり、セメント工場の構内を通り、工事中の新しい道路を進むと旧商店街通り。震災後はたった1軒のお店があるだけです。ほとんどお客様が来ないけれど、赤崎町に商店の灯を絶やしてなるものかと、店主さんは今でも頑張っています。

川沿いを進むと高台へと登っていく道があり、防災集団移転の新しい家が立ち並んでいます。家は新しく立派ですが、人影はなく、商店もなく、静まり返っていました。車がないと不便な立地です。周辺には、ボランティアさんと農業支援を行った牛を飼っていた農家、メンズサロンに通った『後の入仮設住宅』の跡地。近くでは、現在市営球場を建設中でした。震災から10年。月日の流れを感じます。



新しい川口橋



支援に伺った農家



後ノ入仮設住宅 跡地

## ベースからのお知らせ

- 県内にお住まいの方には被災地見学のご案内をいたします。  
お問い合わせください。  
○記念誌をご希望の方には無料で差し上げます。氏名・住所・部数を明記の上、EメールまたはFAX(紙面下部記載)へご連絡ください。  
※受付締切：4月末日 発送：5月

## 大船渡市を中心とした様子(2021/4/11撮影)



### ボランティア登録者数

男性 678人  
女性 1391人  
⇒ 合計 2069人

◆ 3月1日～3月31日  
ボランティア数  
男 性：0名  
女 性：0名  
  
新型コロナウイルス感染予防のため、  
当分の間、ボランティアさんの受け入れ  
を中止とさせていただきます。

### 『カリタスみちのく』発信中！

これからも活動を継続するカリタスベースやグループ同士の情報共有、全国への情報発信を行ないます。必要とされているところに支援をつなぐお手伝いをしていきます。

#### ▽カリタスみちのくFacebookページ

<https://www.facebook.com/カリタスみちのく-121864403124772/>

大船渡ベースとともに『カリタスみちのく』もどうぞよろしくお願ひいたします。

## 2021年3月1日～31日の活動紹介

新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら日々活動しています。

市が設けた『感染拡大防止特別期間』は3月7日迄でしたが、念の為に3月中は買物送迎を除く活動を休止し、スタッフは活動再開に向けての準備を続けていました。

『町の様子』や活動の様子はブログやFacebookで紹介しています。

- ・9日(火) おはなしっこりんの会(体操と読み聞かせなど)
- ・19日(金) まちの保健室主催『元気度アップ教室』

#### <毎週の活動>

- ・水 / 土曜日 『買物送迎』
- ・水曜日 『手芸サロン』
- ・木曜日 『パステル絵手紙』
- ・土曜日 『英語学習会』
- ・在宅訪問
- ・個人依頼

